

# 私の一文字「時」

副代表幹事  
市川 晃

住友林業  
取締役社長



## “時”が育む価値を大切に

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、市川晃副代表幹事にご登場いただきました。

**市川** 私は「時間」をテーマに話をすることが多いので、今回「時」を選びました。時は全ての人に平等に流れています。与えられた時の中でどのように生きるかを考えることが重要だと常々感じています。

**岡西** 私も好きな漢字で何度も書いてきました。「時」という漢字は、日偏が太陽、土が足、寸が手を表しています。隣の「寺」は手と足を使う場所、役所を意味し、仏教伝来以降はお寺を表すようになりました。寺で働く人たちが太陽に向かって行く＝時がたつということで、「時」という漢字が出来上がったといわれています。今回は、太陽の方向へ手を差し伸べるように最後の払いを向かわせて書きました。

**市川** 人間が生きていくということは働くことですから、そういう意味もあるのでしょうか。時というのは不思議なものです。時を重ねることで価値を増すものを弊社グループでは「時間財」と呼んでいます。私たちが扱っている「木材」もその一つと考えています。

**岡西** 私は書家なので和紙、墨、硯といった道具を使いますが、例えば墨は時間が経てば経つほど照りが出る。時の財産というのを感じます。筆も私にとっては時間が経てば経つほど育っていくものだと感じています。

**市川** 時間というものは知らない間にあらゆるものに価値

を持たせてくれるのです。この会議室の壁の木材はヒノキですが、作られてから15年近くたちます。できたときは真っ白でしたが今、特別な手入れをしていないのに、木の持っている油分が自然と出てきて、あめ色に変わりました。木は切り立てのときも芳しい香りを放ち、白く美しいですが、5年後、10年後にもその時々的美しさと価値があります。

**岡西** そういった時間についてのお考えには、海外駐在のご経験が関係するのでしょうか。

**市川** 直接つながるかは分かりませんが、私は欧州第一号駐在員として1995年にアムステルダムに赴任しましたが、当時は得意先も知り合いもいませんでした。にもかかわらず、日本のパスポートと「住友」の名前でどこへ行っても門前払いされることがありませんでした。それは、日本の先人の方たちが「正直で働き者」という評判を、住友という会社が「信用」をつくってくれたからです。彼らが積み重ねた時間が私の駐在をサポートしてくれていると実感しました。

**岡西** 過去が今につながっているんですね。

**市川** 弊社もそうです。木は育つまで100年かかるので、すぐにはビジネスにはなりません。でも、未来の社会のために継続することが大切。そういう意味で弊社は時間企業ですね。

**岡西** 経済同友会についての思いも聞かせてください。

**市川** 去年は地方分権委員会の委員長、今年は自立した地域経営のあり方委員会の委員長になりました。豊かな自然に恵まれた日本は、大都市だけでなく地方との関わりで成り立っています。その日本で、将来に向けて地方自治はどうあるべきか、住人を主体にした議論をしています。国の行政を含めて地方自治のあり方はどうあるべきかを提言し、今年はその実現に向けて活動していきたいと思っています。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

